

令和5年度 学校マネジメントシート（年度末）

三重県立水産高等学校

1 目指す姿

(1) 目指す学校像		「かけがえのない海を護り、命を尊び、海の恵みを活用する豊かな人間性を備えた人材を育成する」というスローガンのもと、「学力の定着・向上」「希望進路の実現」「豊かな心の育成」を中心に生徒を育成し、地域と社会から信頼され必要とされる学校
(2)	育みたい児童生徒像	水産・海洋に関する知識・技術の習得を通し、「考え抜く力」「チームで働く力」「前に踏み出す力」を高め、水産・海洋関連分野のリーダーとして活躍できる生徒
	ありたい教職員像	目指す学校像実現に向け、ひとり一人に応じたきめ細かな指導を心がけるとともに、生徒の自己実現、進路実現に向け生徒とともに成長し続ける教職員

2 現状認識

(1) 学校の価値を提供する相手とそこからの要求・期待		<p><生徒> 安全・安心な学習環境と理解が深まる授業内容</p> <p><保護者> 社会人として相応しい自立心の向上と希望する進路の実現</p> <p><地域> 水産高校として魅力ある取組と地域連携</p>	
(2) 連携する相手と連携するうえでの要望・期待	連携する相手からの要望・期待		連携する相手への要望・期待
	<保護者> 丁寧な教育実践と情報共有	<中学校> きめ細かい指導と情報発信	<保護者> 家庭教育の充実・学校教育に対する理解と協力
(3) 前年度の学校関係者評価等		<p><地域> マナーの育成と地域との連携</p> <p>○ 少子化が進む志摩市内からの入学者を確保するとともに、市外からの入学生を増やしていかなければならない。県内唯一の水産を学ぶ高校としてホームページ（Facebook）の活用、メディアへの情報提供を積極的に行い、県内外への情報発信をしつづけることが重要である。また、入学後も学習指導、生活指導を丁寧に行い、専門的な教育をとおして生徒を育成し、卒業後の進路を見据えた教育活動を引き続き実施してほしい。</p> <p>○ コロナ禍による学校行事の自粛も緩和されることから、地域との交流を積極的に行ってほしい。</p>	
(4) 現状と課題	教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 水産・海洋関連分野でリーダーとして活躍できる人材を育成するため、基礎学力の定着と水産教育の改善・充実が必要とされている。（学習指導の充実） 生徒の進路実現に向け、各学科の専門的な知識・技術の習得や資格取得、地域課題解決型の探究活動やインターンシップ等の実社会と関連する体験活動の充実が求められている。（キャリア教育の推進） 多様な生徒が在籍する中、生徒理解を深め、組織的、計画的に支援を進めていく必要がある。（生活指導の充実） 	
	学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> 教職員個々のコンプライアンス意識の向上や教育上の安全管理に対する未然防止の環境と体制づくりを進める必要がある。（コンプライアンス意識の向上） 志摩市内中学校卒業生数が今後も減少することから、近鉄沿線の伊勢・松阪地域や中・北勢・牟婁地域、水産学科の設置がない県外からの入学生の増加を図る必要がある。（入学者増に向けた取組） 会議、課外補習、部活動、実習の準備、飼育管理、突発的な事案対応等、多様な業務により教職員の多忙な状況を改善する必要がある。（働きやすい職場づくり） 	

3 中長期的な重点目標

教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 水産・海洋関連分野で活躍できる知識と技術を習得するため、教育課程に水産科の専門科目を適切に配置し、3年間をとおして系統的組織的に教育活動を行う。 専門的な学習の基盤となる基礎学力の定着を図るため、少人数による授業を実施するとともに、到達度テストや個別最適な課題により基礎学力の向上を図る。 地域や大学と連携した授業や実習、探究活動、インターンシップ等を積極的に実施し、キャリア教育を推進する。 実践的な教育を通じて専門的な知識と技術を習得し、水産、海洋、船舶、食品加工、増養殖等の各分野で活躍するための資格取得を推奨し支援する。
学校運営等	<ul style="list-style-type: none"> コンプライアンスミーティングやヒヤリハットの共有により教職員個々のコンプライアンス意識の向上と不祥事の未然防止に取り組む。 水産高校の学習内容や魅力をネットやメディアを活用して積極的に発信するとともに、中学校訪問や高校説明会を通じて志摩市外からの入学希望者増に取り組む。 教職員が意欲的に業務に取り組み充実感を得られるよう、業務内容の改善と勤務時間の縮減に取り組む。

4 本年度の行動計画と評価

(1) 教育活動

【結果欄】「◎」：成果指標達成 「◆」：課題 【備考欄】「※」：定期的に進捗を管理する取組 「◎」：最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
学習指導の充実	<p>(1) 国語・数学・英語において少人数による授業を実施し、生徒の実態に応じた学習指導を行う。</p> <p>(2) オンライン学習支援システムの到達度テストを活用し、個別最適化された課題により基礎学力の定着を図る。</p> <p>(3) 担任による生徒面談、三者面談により、生徒の強み、弱みを共有し学習意欲の向上を図る。</p> <p>(4) ICTを活用した授業改善を推進する。</p> <p>(5) 観点別評価の検証を行い、指導と評価の改善を行う。</p> <p>(6) 各学科、各コースの特色化を図り、生徒の実状に応じた教育課程の見直しを行う。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒面談年間3回以上、三者面談2回以上実施 学習指導委員会：年間5回以上開催 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン学習支援システムの到達度テストの正答率 10%向上 学校生活満足度調査における満足度 90%以上 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○国語・数学・英語での少人数講座実施 ○スタディサプリの活用についてリクルート社より助言を受けた。 ○学習指導委員会において、観点別評価の検証を行い、指導と評価の改善を行った。 ○授業改善のための実践研修を実施し、県教委指導主事からICT活用の助言を受けた。 ○学習指導委員会 4回 ○生徒面談 2回 ◎三者面談 2回 (学年末にも実施予定) <p>【結果】</p> <p>◆正答率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生 国語4月 66.7%→9月 67.0% 英語4月 41.0%→9月 42.6% ・2年生 国語4月 69.3%→9月 68.1% 英語4月 40.3%→9月 40.9% <p>満足度アンケート (満足・やや満足)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎授業・実習 96.7% ◎学校生活 90.8% 	※

<p>キャリア教育の推進</p>	<p>(1) 水産海洋に関するさまざまな実習や大型実習船しろちどりによる航海実習をとおして専門的な知識や技術を習得し、水産海洋分野で活躍できる人材を育成する。</p> <p>(2) 乗船実習を中心とした実践的な教育を通じて専門的な知識と技術を習得し、海技士や小型船舶操縦士等の資格取得を目指す。(海洋・機関科)</p> <p>(3) 水産食品加工や水産資源増殖の実習を通じて専門的な知識と技術を習得し、食や増養殖の関連業界で活躍できる人材を育成する。(水産資源科)</p> <p>(4) 外部機関と連携したインターンシップや進路ガイダンスを実施し、職業理解を深めるとともに進路意識を向上させる。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターンシップ、進路ガイダンスの実施 ・ 卒業生や外部講師による進路講話の実施 ・ 成果発表会(3年生課題研究)の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水産・海洋系の基本的な資格の受験者数と合格率向上 ・ 希望する進路先への決定率 100% 	<p>【取組】</p> <p>○インターンシップ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 資材運搬船:3年生 33 人 ・ 大型フェリー:3 年生 2 人 ・ 大型定置網:3年生1人、2 年生 5 人 ・ タグボート:3年生4人 ・ レストラン:3年生9人 ・ 水族館・大敷網:2年生 4 人 ・ 水族館:2年生4人 <p>○進路ガイダンス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生:6月 21 日実施 ・ 2年生:10 月 11 日実施 <p>○卒業生進路講話</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3年生:5月 24 日実施 <p>○海運事業者セミナー (中部運輸局主催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1年生海洋・機関科:12 月 12 日実施 <p>○船員セミナー (内航タンカー組合主催)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専攻科 1 年生、専攻科を希望する3年生、2年生希望者:12月 12 日実施 <p>○成果発表会 1 月 17 日実施</p> <p>○企業見学会(企業訪問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2年生全員:2月7日実施 <p>【結果】</p> <p>基本的な資格</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆水産海洋技術検定 R5:85.7% (42/49 人) R4:88.9% (48/54 人) ◆海洋情報技術検定 R5:57.6% (30/52 人) R4:61.8% (34/55 人) <p>◎2 級栽培漁業技術検定 R5:85.7% (12/14 人) R4:62.5% (10/16 人)</p> <p>◎進路決定率</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就職:100%(31 人/31 人) (自己開拓・縁故を含む) ・ 進学:44.4%(12 人/27人) 残 15 人は専攻科進学希望 	<p>◎</p>
<p>生活指導の充実</p>	<p>(1) 個々の生徒の発達段階に応じたきめ細かな指導・支援に努め、社会人として必要なマナーや規範意識を醸成する。</p> <p>(2) 学校行事を通じて望ましい人間関係を形成し、協力してよりよい学校生活を築こうとする自主的な態度を育てる。</p> <p>(3) 外部機関と連携した講話を実施し、防犯、防災意識の向上を図る。</p>	<p>【取組】</p> <p>○毎日校門前での登校指導を行い、挨拶、声掛け、服装指導を実施。</p> <p>○志摩市防災危機管理室と連携した避難訓練・防災講話を実施</p> <p>○頭髪服装指導は学期に1 回実施</p>	

	<p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 登校指導を行い、個々の生徒への声掛け: 平常日課日実施 ・ 身だしなみ(頭髪・服装)の指導: 月1回程度実施 ・ 生徒会が主体となる生徒活動の充実(随時) ・ 外部講師(警察、市役所職員)による講話: 年3回程度実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自己肯定感アンケート「人の意見を素直に聞くことができる」 ・ の肯定的回答(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」)の割合(経年変化)上昇 	<p>○主体的な生徒会行事(体育祭、クラスマッチ、ピンクシャツ運動、水高祭、能登半島地震義援募金)を実施</p> <p>【結果】</p> <p>○自己肯定感アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の意見を素直に聞くことができる <p>1年生 87.8%</p> <p>2年生 91.7%(1年次85.0%)</p> <p>3年生 83.3%(2年次93.3%)</p>	
<p>人権教育の推進</p>	<p>(1) 生徒の自己肯定感を高める取組を進める。</p> <p>(2) 個々の生徒の自己理解を促進し、自己有用感を醸成し、仲間づくりを重視した教育活動を推進する。(人権学習のみではなく普段の授業づくりから取り組む。)</p> <p>(3) 自らの命と共に、他者の命を大切にす態度を育成するため多くの機会を通じて生命尊重の教育を推進する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内人権研修会の実施と校外の人権研修会への積極的参加 ・ 仲間づくりを意識した授業づくりの実施。 ・ 命の大切さについて考える講演会等の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教職員の人権に関する研修会(校外実施)への参加: 90% ・ 自己肯定感アンケート「人の為に力を尽くしたい」「自分のことを必要としてくれる人がいる」の肯定的回答(「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」)の割合(経年変化)上昇 	<p>【取組】</p> <p>○入学生の指導や支援に必要な情報について、中学校を訪問し聞き取りを行い、職員会議において全職員で共有した。</p> <p>○外部講師による人権講演会(12/14 実施)</p> <p>【結果】</p> <p>◎校外人権研修参加率 100%</p> <p>○自己肯定感アンケート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人の為に力を尽くしたい <p>1年生 72.9%</p> <p>2年生 86.1%(1年次87.5%)</p> <p>3年生 80.6%(2年次80.0%)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分のことを必要としてくれる人がいる <p>1年生 83.7%</p> <p>2年生 75.0%(1年次75.0%)</p> <p>3年生 72.2%(2年次73.3%)</p>	
改善課題			
<p>生徒ひとり一人の状況(学習、生活、家庭)に応じたきめ細かい指導ができており、校内での取組は充実している。引き続き生徒が卒業後に役に立つ資格取得に取り組むとともに、その成果を外部に発信することで入学希望者増につなげていく。</p>			

(2) 学校運営等

【備考欄】「※」: 定期的に進捗を管理する取組 「◎」: 最重点取組

項目	取組内容・指標	結果	備考
コンプライアンス意識の向上	<p>(1) 危機管理体制を構築し機能的に運用する。</p> <p>(2) 報告・連絡・相談を密に行い、発生事案への早期対応・早期解決に努める。</p> <p>(3) 信頼される教職員集団づくりに取り組む。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 危機管理マニュアルの点検と見直し ・ 不祥事（体罰等）の未然防止に向けた校内研修の実施 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校信頼向上委員会の開催：年3回以上 ・ コンプライアンス研修の実施：年3回（学期に1回） 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 危機管理マニュアル一部見直し ○ 北朝鮮による偵察衛星打上に対応（しちどりに安全確認→県教委報告、マチコミメール送信） <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学校信頼向上委員会：2回実施（①5月30日②11月8日③3月開催予定） ○ 不祥事の未然防止のための職員コンプライアンスミーティングを毎学期実施 ◆ 金品亡失事案発生 → 再発防止に向けたコンプライアンスミーティング実施 	※
入学者増へ向けた取組	<p>(1) 水産高校の専門的な学びと水産・海洋系職業の魅力を発信する。</p> <p>(2) 志摩市内外の中学校を訪問し、水産高校の学習内容や高校卒業後の進路について説明する。</p> <p>(3) 学校関係者と学校の魅力の発信、入学者増について協議する。</p> <p>【活動指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページや Facebook、メディアによる情報発信 ・ 市外中学校の高校説明会への参加拡大 ・ 高校生活入門講座の複数回実施 ・ 小学生対象の乗船体験や実習体験の実施 ・ 学校活性化協議会の設置 <p>【成果指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 志摩市外の在校生の出身中学校への訪問数(20校) ・ ホームページ(Facebook)の活動掲載(年100回以上の更新) ・ 志摩市外からの入学志願者数(志願者の45%以上) ・ 学校活性化協議会の開催:年3回 	<p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 市外中学校の説明会 南勢中、南島中、鳥羽東中、答志中 ○ 高校生活入門講座2回実施(8月21日、9月16日) ○ 親子乗船体験2回実施(志摩市7月8日、県7月9日) ○ 市内小学校との交流授業 ・ 神明小(3年生) ・ 大王小(3年生) ・ 志摩小(3、5年生) ・ 浜島小(6年生) ○ 市内中学校との交流授業 ・ 志摩中(1、2年生) ・ 浜島中(2年生) ・ 文岡中(1年生) ○ 志摩市外の中学校訪問 ・ 伊勢市立中全10校 ・ 松阪市立中2校 ・ 南伊勢町立中全2校 ○ 県外への中学校訪問 ・ 信楽町立信楽中 ○ 県内中学校長会での学校説明2回 <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 中学校訪問:13校 ◎ Facebook 更新:198回(1月末時点) ◎ 学校活性化協議会:3回 ◆ 前期選抜合格内定者43人 志摩市内:32人(74.4%) 志摩市外:11人(25.6%) 	◎

		○後期選抜志願者 20 人 志摩市内:8 人(40.0%) 志摩市外:12 人(60.0%) (R4 入学者 53 人)	
働きやすい職場づくり	(1) 働き方改革を推進し、教職員がやりがいを持って仕事に従事できるよう業務の改善に取り組む。 【活動指標】 ・ 定時退校日（毎月）とクラブ休養日（毎週）の設定 ・ 効率化による 1 時間以内の会議終了 ・ デスクネットや Google for Education の積極的活用 ・ 所属長による教職員面談の実施。 【成果指標】 ・ 1人あたりの月平均時間外在校等時間:30 時間以下 ・ 1人あたりの年間休暇取得日数:前年度比1日増加 ・ 定時退校日における定時退校職員:90% ・ クラブの休養日の実施率:90% ・ 1時間以内に終了した会議:90% ・ 年360時間を超える時間外労働職員:0人 ・ 月45時間を超える時間外労働職員:のべ0人 ・ 所属長による教職員面談:年3回 ・ 教職員ストレスチェック結果:健康リスクが県平均より5pt低	【結果】 ○1人あたりの平均在校時間:7時間47分 ○1人あたりの休暇取得日数:16.0日(R4:14.8日) ○定時退校日退校職員:97% ○クラブ休養日:100% ◆会議1時間以内終了:89% ○年360時間超職員:0人 ◆月45時間超職員:のべ8人 ◎校長による面談3回実施(5月、12月、2月) ◎教職員ストレスチェック結果 ※全国平均を100とし、数字が低いほど良好 ・総合健康リスク:73(R4:72) (県平均:89)	○

改善課題

志摩市内の少子化が進むなか、入学志願者が前年度に比べて増加していることは大いに評価できる。今年度の取組を継続し、引き続き入学志願者増、定員充足に向けての取組を推進していくことが必要である。

5 学校関係者評価

明らかになった改善課題と次への取組方向	<ul style="list-style-type: none"> ・伊勢志摩地域の少子化が進む中、志摩市内からの入学者を確保するとともに、市外や地域外からの入学生を増やしていかなければならない。県内唯一の水産を学べる高校としてホームページ(Facebook)の活用、メディアへの情報提供を積極的に行い、県内外への情報発信をしつづけることが重要である。また、入学後も学習指導、生活指導を丁寧に行い、専門的な教育をとおして生徒を育成し、卒業後の進路を見据えた教育活動を引き続き実施してほしい。 ・生徒主体の学校行事の充実に加えて、地域の自然や文化に親しむ機会も設けて郷土愛を育ててほしい。
---------------------	--

6 次年度に向けた改善策

教育活動についての改善策	保護者以外の地域の方々にも水産高校の魅力が伝わるよう、一般の方々参加できるイベント等を実施するとともに、生徒が地域の自然や文化に親しむ機会を設けて地域との交流を図る。
学校運営についての改善策	<p>伊勢志摩地域の少子化が進むなか、市外や地域以外からの入学希望者増に向けて積極的に取り組んでいく。また、入門講座に参加する中3生のうち、6割程度が入学していることから入門講座参加者増に向けて取り組む。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①志摩市以外の鳥羽市、伊勢市、松阪市の中学校への学校訪問(校長・教頭) ②市教委と連携した市内小中学生による水産高校訪問実習体験の拡充 ③中学校教員への水産高校の認知度を高めるため、研修推進課と連携したキャリア教育研修講座(水産高校訪問研修)の開催。 ④四代目しろちどりを活用した地域交流と北勢地区での船内公開、乗船体験の実施。 ⑤県内外遠方の中学生が興味関心を持つきっかけとなる学校ホームページの改善。 ⑥水産高校での学習内容や取得できる資格に加えて、卒業後の進路や卒業生の活躍なども中学生や保護者、中学校教員に周知する。